

弘前市（東北ブロック）

【計画期間 平成28年4月～33年3月】

- ・弘前藩2代藩主津軽信枚が築城以来、4百年以上戦災や自然災害を受けることなく城下町のまちなみ、重要文化財などを継承。
- ・城下町の町割りを原型に道路網が形成され、中心市街地には都市機能が集中している。
- ・人口177,549人(平成27年国勢調査) 面積524.2Km²

【前計画の概要】

○商店街エリアのハード整備を中心に空き店舗対策や修景整備、既存施設の再生事業を実施。

更に商店街やNPOによるソフト事業を実施することで幅広い層の来街者獲得を目指した。(計画期間:平成20年7月～平成26年3月)

【中心市街地の変化】

○交流施設の土手町コミュニティパークの整備や弘前駅前に子育て支援機能を有する商業施設「ヒロロ」を整備したことで歩行者・自転車通行量が増加に転じたものの目標達成には至らなかった。

○融資制度の整備・運用、テナントミックス等により空き店舗率は目標達成した。

○平成22年12月の東北新幹線新青森開業後すぐに東日本大震災に見舞われ、観光客の入込数は減少したが、まち歩きを中心とした着地型観光の事業展開等により徐々に回復している。

【目指す中心市街地像】

多くの人が集う、活気ある楽しいまち

■前計画の目標

目標	指標	基準値	目標値(H25)	最新値(H25)
歩いて出かけたくなる賑わいのあるまち	歩行者・自転車通行量	20,464人(H19)	25,000人	18,555人
	空き店舗率	13.7%(H18)	8.5%	8.5%
歴史・文化と触れあえる観光のまち	観光施設等利用者数	1,820,440人(H18)	2,125,000人	2,028,937人

■新計画の目標

目標	指標	基準値(H26)	目標値(H32)
来街者を増やす	歩行者・自転車通行量	19,666人	23,000人
空き店舗を減らす	空き店舗率	8.4%	6.5%
観光客を増やす	観光施設等利用者数	1,981,540人	2,301,000人
居住者を増やす	居住人口の割合	5.7%	5.9%

来街者を増やす

- 【主要事業】
- ・駅前広場整備事業
 - ・庁舎増改築事業
 - ・(仮称)ルネスアベニューリノベーション事業
 - ・中心市街地活性化広場公園整備事業(市民中央広場)など

空き店舗を減らす

- 【主要事業】
- ・空き店舗活用支援事業
 - ・空き店舗活用チャレンジ融資利子補給措置
 - ・商業近代化資金融資の特例措置など

観光客を増やす

- 【主要事業】
- ・弘前城本丸石垣整備事業
 - ・吉野町緑地周辺整備事業
 - ・鷹揚公園整備事業
 - ・藤田記念庭園利活用事業など

居住者を増やす

- 【主要事業】
- ・弘前駅前北地区土地区画整理事業
 - ・(仮称)城東閣リノベーション事業
 - ・空き家・空き地の利活用事業など

弘前市中心市街地活性化基本計画の事業概要

来街者を増やす

①駅前広場整備事業

中央弘前駅前広場を整備し、交通結節機能の強化及び安全な歩行者空間を確保する。



②庁舎増改築事業

庁舎の改修・増築により、弘前公園エリアの観光資源の魅力向上と、市民の利便性向上が図られる。



③(仮称)ルネサスアベニューリノベーション事業

「吉野町緑地周辺整備事業」と連携し、文化・交流エリアの魅力向上を図る。



空き店舗を減らす

④空き店舗活用支援事業

中心市街地の空き店舗を活用し、新規出店する際に要する改装費の一部を支援することで空き店舗を減らす。

⑤空き店舗活用チャレンジ融資利子補給措置

青森県の「未来を変える挑戦資金(空き店舗活用チャレンジ融資)」に協調し、市が保証料、利子の補給をすることにより融資率を高め、空き店舗を減らす。

観光客を増やす

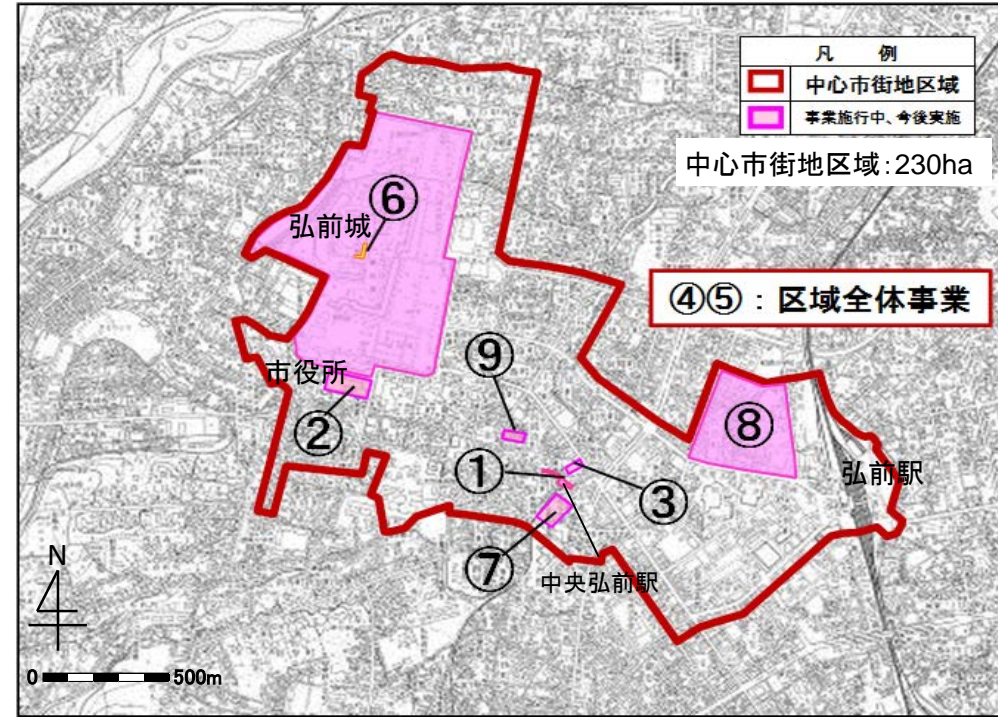
⑥弘前城本丸石垣整備事業

天守閣のある石垣を改修し、弘前公園を保全しながら改修工事を広くPRし、観光の魅力を高める。



⑦吉野町緑地周辺整備事業

中心市街地の新たな魅力を創出する「文化・交流エリア」の拠点として、美術館を核とした賑わいの場とする。



居住者を増やす

⑧弘前駅前北地区土地区画整理事業

道路・公園などの都市施設を効率的に配置するとともに、居住環境の整備や、商業拠点の連続性、回遊性の向上を図る。



⑨(仮称)城東閣リノベーション事業

当市内随一の繁華街である鍛冶町地区において、文化・交流の拠点を形成する。

